

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2020年1月23日発行

No. 566号 (第51期 11号)

〒454-0055

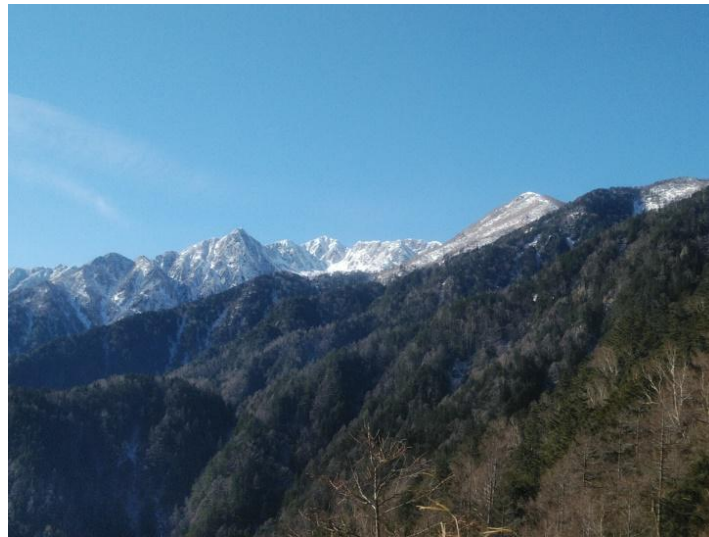
名古屋市市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

各山岳会 冬山合宿の様様



じねんじょ山の会 中央ア・空木岳 12/21～22

今年度の冬山合宿は年間計画どおり中央アルプスの空木岳で12月21日～22日で実施しました。合宿参加者は14人で、全会員48人の約3割となります。

合宿に向けての取組みは、山行部の3人による11月2日～3日での下見から本格化しました。何カ所もの崖地や梯子段などの危険箇所や幕営地が数少なく狭い事、さらに登山口から山頂までの標高差が約2000mあり冬山での長時間の行動が予想されて、かなりの体力が必用な事も改めてわかりました。そうしたことを踏まえて最近のじねんじょ山の会の冬山合宿と比較すると、今回はより一層の頑張りが必要な事が認識されました。(次項に続く)

《目次》	各山岳会 冬山合宿の様様	1
	新しい年、各会の力を合わせて頑張りましょう。	2
	組織拡大の発展を——1000名の県連盟で総会を迎えよう	2
	2019.11.9～10 全国登山学校交流集会 (三ツ峠)	3
組織部	第8回組織担当者会議 報告 2019年12月18日	4
教育部	12/19(木) 第9回教育担当者会議を開きました	5
自然保護部	第8回自然保護部会開催	6
女性部	女性部だより	7
	登山時報を購読しましょう	7
	カレンダー	12

(表紙からのつづき)

いつの合宿もそうですが、合宿へは会全体で取り組んでいこうと呼びかけをして取り組みます。歩荷トレは主に合宿参加希望者を含む18名で11月17日に大川入山で行いました。トレーニングと共に、合宿参加者の体力確認も行いました。その次は12月1日に南山の岩場でアイゼントレを18名で実施。そうした中で合宿参加者による合宿打合せを行い、14人の合宿メンバー(男性9人・女性5人)が確定して合宿本番に臨みました。

12月21日の合宿初日は、空木岳避難小屋を目指して、登山口の駒ヶ根高原スキー場を6:30に出発して皆元気に歩き出しました。登山道には雪が無く秋山の様な雰囲気での登山道でしたし、途中の休憩には、オコジョがかわいい顔を見せるなど心が癒されました。そのうち2時間半程歩いた頃に、メンバーの一人が足の痛みを訴えはじめましたが、荷物を分散した上でゆっくり進むことにしました。やがて池山避難小屋分岐での休憩時にそのメンバーの足の具合を確認した所、あまり良くないと返事でしたので途中撤退も考慮しながら幕営適地を探しつつマセナギまでは進むこととしました。11時頃にマセナギへ到着したところで、ここより先は岩場が有り斜度も急になるので足の痛みが有る状態ではこの先を進むのが厳しい事、またこの先しばらくはテント設営場所が無い事を考慮して、ここで撤退して池山避難小屋泊にする事にしました。好天の青空の下、遠くに見える南駒ヶ岳方面の景色を眺めて堪能しマセナギを後にして、11時40分に池山避難小屋に到着しました。池山避難小屋は広くて綺麗な小屋であり、ここで十分な時間ができた為、思いもかけない豪華な食事や宴会となり、楽しい忘年会をすることとなりました。

22日の二日目は下山するのみで、池山避難小屋を7時に出発して、8時50分には登山口に帰着して合宿は終了となりました。

空木岳山頂には行けず、雪道を歩く事も無く幕を閉じた冬山合宿となりました。が、皆で取り組み準備し、パーティーを組んで空木岳を目指し、時々状況に対応して判断をしてパーティー行動をした事は、良い経験や教訓となり今後の活動に生かすべき蓄積となる事でしょう。また避難小屋では大いに親睦を深める事が出来たことも有意義な合宿山行として記憶に残ることでしょう。

(じねんじょ山の会 伊藤・脇田)

新しい年、各会の力を合わせて頑張りましょう。 理事長 佐藤和男

あけましておめでとうございます。今年はオリンピックが開催されスポーツクライミングが一層注目され、登山も一層広がりを見せそうです。昨年2019年の年間平均気温は、1898年の統計開始以来、最高だったと発表されました。地球温暖化の影響で高温となる年が増えていて、自然災害の多い年でした。年末年始の各会冬山合宿でも雪が少なく生態系にも変化が表れてくる気がします。昨年は、県連盟の事故報告が21件あり4件の増となっています。これ以上事故のないように取り組まなければと思います。

県連盟の会員数は、各会、連盟員の努力によって1000名の連盟員の回復まで二十数人のところになっています。会員数の減少は県連盟の活動全体にかかわってきます。各会、連盟員の力を合わせて取り組んでいきたいと思います。

今年は2月15日から16日にかけて日本勤労者山岳連盟第34回総会が招集され、労山創立60周年にあたります。労山の組織をどう発展させるかが課題の一つになると思います。

3月には愛知県連の第52期総会も開かれます。課題は山積していますが、仲間を増やし安全な登山に取り組ましましょう。

組織拡大の発展を――1000名の県連盟で総会を迎えよう

愛知県連盟2019年11月末の組織数が976名となり、これを以て全国連盟に報告しました。11月末は全国連盟として年間での全国の組織数の集計の月となっており、同時に翌年の全国連盟・連盟費の基準月ともなっています。これは全国連盟からの、安全対策基金から登山学校等への補

助金の基準組織数ともなります。

第51期は総会3月に988名であった会員数が5月には918名まで落ち込んでいましたが、各会のご尽力により11月末には前記976名まで回復させてきました。総会時の会員数まであと12名、大台の1000名までには24名となりました。

会員拡大は何よりも広範な登山愛好者やこれから登山を始めようとする人たちを組織し、一緒に山に登り共に学び合ってその成長を喜び合うことでもあります。これにより新しい会員たちにとっては登山のジャンルも山域も格段に広がり、豊かな登山活動を楽しむ保障となるでしょう。

同時に、私たち各会の存続と発展、県連盟の存続発展にも関わる重大な事柄でもあります。3月1日には前回総会の会員数を超え、当面1000名の会員数を達成しての第52期総会を迎えましょう。

2019.11.9~10 全国登山学校交流集会（三ツ峠）

半田ファミリー山の会 洞井孝雄

2019年11月9日、10日の二日間、山梨県の三ツ峠で、全国連盟の「登山学校交流集会」が開かれた。愛知県連からは清水美帆（あつた）、三島由久（じねんじょ）、洞井（半田F）の三名が参加した。遅くなったが、要請があったので、報告する。

「登山学校」の開講は「あたりまえ」？

集会は、11月9日(土)、三ツ峠屏風岩前で各連盟主催の登山学校および講習会における内容紹介と情報交換の後、山小屋（四季楽園）にて宿泊、懇談会。翌11月10日(日)は、参加者同士でパーティーを組んで親睦クライミング後、解散。参加者は東京、神奈川、長野、愛知、大阪、兵庫、岡山の7地方連盟の担当者と全国連盟のスタッフ合わせて総勢26名。小規模な集会だったが、登山学校が開かれている地方連盟は多くはなく、愛知県連のように「あたりまえ」のように開講されているわけではないし、これまで全国の地方連盟のそれを見聞きしてきた限りでは、愛知県連のように一定期間にわたってトータルに「山登り」を伝えていく、県連盟の会員教育の一環として開講され続け、「機関」として半世紀近く「登山学校」が機能し続けてきているところはほとんどなく、「登山学校」という名称であっても、単発の行事やひとつのテーマを設定して開かれる講習であることが多いことを考えれば、よく集った方だろう。

集会当日配布された資料には、事前に集められた東京、神奈川、愛知、大阪各地方連盟の「開講要項」が転載されていたが、愛知以外の登山学校はクライミングの「技術」に特化されていて、愛知のように総合的に「登山」を身につけた登山者を育てることを目指す「登山学校」とは異なることも明らかになった。

全国連盟がこういう集会を開こうとする以上、昨今の労山の実情を俯瞰し、組織としての会員教育の現状に警鐘を鳴らし、「労山の会員教育としての登山学校」のあり方を考える機会としたい、そんな位置づけがあるのかな、という期待もあったのだが、この集会の『案内』には、「実施要領」だけがあって「趣旨」や「目的」、「意義」は記されていない。目を通した途端に、「登山学校」と謳われてはいても、その意義や目的などはスルーされてしまって、岩登りに矮小化された交流イベントに終始してしまいそんな焦燥感を覚えた。この二三年、愛知県連でも、一部から出されている登山学校への中傷にも見られる「労山の登山学校」「組織としての会員教育」についての本質的な理解(意義と目的、歴史等々)や認識のないまま、目の前のことだけしか見ようとしない流れと同質のものを感じたからだ。

案内に書かれた「持ち物」は登攀用具一式だったが、私たちは、実際に使っている愛知県連の『登山学校テキスト』、『事件事例集』、「岩登り」講義の資料や、実技後の受講生のレポート、コーチ会議メンバーによる評価表、申し送りなどのひな型のコピーを装備に加え、三ツ峠まで担ぎ上げた。

「理念」、「意義」と「目的」は不可欠

当日は、屏風岩の前で、各連盟から、それぞれ開かれている登山学校の考え方、内容、実情など

について報告がなされた。

「えっ、テキストも持ってきてくれたんですか？」

愛知県連で実際に使っている資料を参加者に配布したことに、全国連盟の担当者は驚いたようだが、それに基づいて清水さんがおこなった報告は好評だった。

「主にクライミング関係」と書かれた集会の実施要項からはみ出した部分が多い愛知県連盟の登山学校の考え方、進め方、実際については、屋外での口頭報告と技術の説明だけでは伝わらない。資料に基づいた報告は、他の地方連盟とは少し毛色が違っていたが、それは参加したいいくつかの地方連盟への問題提起ともなり、関心を寄せられるところとなったようだった。

愛知の登山学校は、そもそも草創期の加盟団体の要請を受け、組織の会員教育の受け皿として出発した歴史があり、「登山を科学的・系統的に」学び、「自立した登山者を」養成する場として位置付けられてきた。カリキュラムは「労山の理念」に始まり、登山の考え方、安全に対する姿勢、基礎的な知識や技術、登山指向によって分化する登山形態、そこで求められる技術へと展開される。それを持続的に維持・発展しながら現在に至った半世紀近い伝統がある。

細かなところまで突き合わせて比較したわけではないが、多くの地方連盟の登山学校は、同じような「登山者教育」をめざすことからスタートしても、位置づけが不十分であったり、途中で中断し、再開されたり新設されたりすると、初めの趣旨や位置づけは失われ、その時々担当者の登山指向や登山形態と「思い」に委ねられ、それらを具体化するのに必要な知識・技術だけを教えるという形に変質する。多くはクライミングというジャンルに特化されて、「登り方」だけを伝える場として実施され、ほとんどは、「理念」の部分が欠落しているのが実態である。そういう大きな違いがある。

夕食後、宿舎のそここで参加者が固まって語り合う場ができた。「愛知県連のように一定期間、ずっと登山学校にかかわるコーチは、自分の山行ができないのではないか」、「教えるためには受講生よりも高い技術を持つ必要があるし、その技術を高めるための自分の山行の時間がない」などの声が複数の担当者から出された。それに対して、「自分の山行というのはいったいどんな山行のことだろうか？」と問いかけ、「自分のできないことを受講生にやれ、というわけにはいかない。でも、技術なんかすぐに若いひとたちに追い抜かれてしまう。登山学校で何を伝えるか、教えるかということが大切ではないか」、という話をしたのだが、登山学校の「組織としての位置づけ」が曖昧なままで、成り行きまかせになれば、任意団体の常として、多分、長続きはしない。やはり、「意義と目的」は不可欠である。

結び。三ツ峠からの富士山

三ツ峠の駐車場からこの日の宿舎となった四季樂園までは1時間、久しぶりに登攀用具一式を担いで上がった。小屋から10分ほど急な段々を下ると屏風岩の下部に着く。高度差80m、幅200mの火山岩で構成された岩場はⅢ級からⅤ級まで、人工、フリー、さまざまなルートがあるが、見かけほど簡単ではない。初日は、左フェイスの下部で、富士山を背に、各連盟の登山学校の実施状況や問題点について報告し合い、夜は参加者同士、経験や問題点、悩みを語り合った。

二日目は、主催者が割り振ってくれたパーティーに分かれ交流クライミング。

「しばらく岩に触ってないので…」、とセカンドで登らせてもらったのは情けない話だが、それでもなおかつ難しかった。かつて愛知の登山学校の研修山行で使ったときには、初見でも適当にルートを選んでリードで登っていたというのに…。

昔と変わらず、天狗の踊り場に立って眺めた富士山は一級品であった。

組織部 第8回組織担当者会議 報告 2019年12月18日

出席者：■あつた（森田）、□アリス（大石）、□犬山（井川）、■春日井（弘中）、
■かわせみ（神谷）、■じねんじょ（森）、■ありんこ（榊原）、□吉田・□吉川（同志会）

□みどり(杉浦)、 4山岳会、 5名出席

1) 一般登山講座、次年度の準備

- *組織担当者会議の交流・下見山行——延期となっており、山域も検討中。
- *案内チラシの配布・設置状況——各会での訪問者・見学者に配布して参加を呼び掛けて下さい。ふわくでは労山会員でない会員が多く、それら会員と労山とつながりを付ける意味で配布を進める
- *藤内小屋の正面の看板と物置小屋窓内側、藤原岳休憩舎の中央通路と休憩室に設置済。
行かれた会は見てください。
- *講座については、ほぼ決まっています。
- *第⑦講座「山の自然を楽しむ」の竹内教授から、質問事項やテーマについて問い合わせが来ているので、梅海新道の貝の化石と日本海の成り立ち、日本の成り立ちとの関係について、をお願いしよう
となりました。他に質問などありましたら組織部までお寄せください。

2) 会員拡大の取組み・対策

- *県連連盟員の組織状況は、別紙添付。
ふわくについては10月と比べて11月は4名増加しているので、どのような働きかけや対策をしたことによる成果なのか、ふわくの労山会員として確認し、これをふわく内での労山会員拡大の糸口となるように活かすべきだろう。
- *労山愛知の編集方針の状況——くらら山の会への訪問、犬山労山マップや東三河の周年記念集会への参加の中で、これら会発展の要因、良い点を掴んできて、労山愛知紙上に報告し、他の会が学ぶべき点、参考にする点を、連盟内で共有できるよう、記事を労山愛知に掲載する。
- *県連盟紹介パンフ作成状況——出席山岳会より修正内容の報告を受けた。また、編集内容について討議しました。

3) HPの編集・更新

- *①写真データ、②ブログ、③県連紹介、欄について検討しました。
- *各会のデータはチェックして連絡する事。

4) 労山運動の理念についての学習——感想・討議を中心に——次回。

資料集——別紙、2018年「労山運動の理念と発展」一覧、
登山学校テキスト2013年版
同上、第50期第1回講座「労山運動の理念」講義(記録)
登山時報草シリーズ創期を語る①伊藤正俊
登山運動30年のあゆみ——愛知県連草創期を作ってきた方々の文章

教育部 12/19(木) 第9回教育担当者会議を開きました

日時: 12月19日(木) 19時30分～

参加者: 半田F(新海)、あつた(谷本)、かわせみ(松原)、同志会(吉川)、
ありんこ(榊原) 計 5山岳会 5名

(1) 氷雪技術講習会について

① 氷雪技術講習会の途中報告

10山岳会から講座1～4で毎回20名を超える受講者があり、延べ97名(平均24.3名)でした。

また、そのうち、テント泊の実技講習（2/22-23）に4名、日帰りの実技講習（1/18）に12名の申込みがありました。（テント泊の実技講習は12/14-15 西穂高山荘付近を予定していたが、雪が少なく滑落停止訓練等ができないため、2/22-23 天狗岳と日程&場所ともに変更しました。）

実技講習は講師2名で実施しますが、日帰り講習については、受講生が12名と多く講習場所（伊吹山6合目）までの山行をサポートしていただくスタッフを募集しますので、雪山の経験のある方は、ぜひ、スタッフ参加をお願いします。

(2)教育活動(交流を含む)について

- ・教育面での会と県連との関わり方や県連全体の教育体系について、神奈川県連が見直しの最中ですので、もう少し情報収集して、来期に検討していく「登山学校をはじめ各種講習会の体系図をつくりあげながら教育体系を支える教育活動（方法、体制等）のあり方」の参考にしていくこととなりました。
- ・そのためにも、各会の教育に携わっている方々、リーダーとして山行を引っ張っている方々がお互いに交流できるように交流の場を提供し、顔や性格や山の技術の力量をお互いに確認・把握し、親しくなることから始めていくこととします。
- ・具体的には、来期の方針として、交流山行（1-2ヶ月に1回）を設定し取組みこととしました。

(交流山行の案)

- ・日帰りの交流山行をメインとして実施する。
- ・地図読み／岩場歩行／長時間歩行／雪慣れといった交流山行が役立つように取組む。
- ・各会でリーダー等を持ち回りで取り組みたい。
- ・上期で振り返り／下期にむけたすり合わせを実施し、各会の要望／意見がくみ取れるように運営していく。

(交流山行の日程・コース案)

- ・総会に具体的に提案できるように上期の交流山行の日程・コース案を話し合いました。
 - ・4/19(日)御在所岳(ヴィアフェラータ・富士見尾根)/一の谷新道
 - ・5/17(日)国見岳(国見尾根)/御在所岳(中道) 一般登山講座のスタッフとして参加
 - ・6/27(土)御在所岳(地獄谷)/ハライド 朝明駐車場を起点とする
 - ・8/30(日)元越谷 沢登り山行での交流

昨年アンケートを取り、氷雪技術講習会の見直しに取り組んだ結果、日帰りの実技講習の希望が掘り起こされ、日帰りの実技講習12名の申込みにつながったと考えます。

今後も、県連教育活動について、オープンに議論してよりよい体系にしていきます。

次回、第10回教育担当者会議を2020年1月15日（木）に19時30分より開きますので、各山岳会・コーチ会議がら奮って参加をお願いします。

自然保護部 第8回自然保護部会開催

日時 2019年12月19日 19時30分～

場所 県連事務所

参加者：吉田（くらら）、太田（春日井）、塚原（かわせみ）、山本（みどり）、渡辺（同志会）、中根・鋤柄（ふわく）、山腰（若駒）、石黒・田中（あつた） 8山岳会10名

- ・秋に合同清掃ハイクの確認を行う。
- ・今行っている自然保護活動以外の事を来期は取組んでみたいとの意見が出される。
- ・51回目からの春の清掃登山の取組みについて話し合うが、報告出来るまでの話し合いは出来ませんでした。これからの継続課題とする。 以上。

女性部 女性部便り

12月15日(土)「山筋ゴーゴー体操講習会」を、講師に石田先生を迎えて労働会館東館で開催しました。参加者は10山岳会43名【ふわく10名、若駒1名、半田ファミリー1名、くらら5名、みどり6名、じねんじょ1名、あつた6名、同志会3名、犬山マップ1名、春日井峠3名、一般参加者6名】です。

石田先生からは、1月の講座に引き続き、年齢と筋力の関係を重点に、誰もが安全にいつまでも山に登るための筋肉の維持などを、データを示しながら分かりやすく講演をしていただきました。実技では、どの筋肉が強化されるかを「山筋ゴーゴー体操」の冊子を使用してわかりやすく指導していただきました。先生の体幹の強さに驚きの声は何度となく参加者から上がりました。今回は県連初のサポーターでもある木村さん(あつた)のデビューとなり、先輩サポーターの川上さんと共に参加者の方々に指導をされました。参加者からは、「参加して良かった。」「自分のためになった。」との多くの声がありました。女性部では、来年度も引き続き「山筋ゴーゴー体操」の普及を継続していきたいと考えています。

料理講習会「筋肉を作る PartⅡ」

石田先生の講演の中で「筋力を作るのには食も大切」とありました。それを受けて、昨年度に続き2月20日(木)に料理講習会を開催します。調理経験の無い男性も気軽に参加して下さい。

期日 2月7日(木) 18:00~21:00

場所 名古屋市東区生涯学習センター

講師 服部 富久美さん(くらら山の会)

会費 1,000円

持ち物 エプロン、三角巾(はんかち、バンダナ等)、布巾(2~3枚)

参加申し込み 2月7日(金)までに各会の理事または女性部担当まで

登山時報を購読しましょう

・私は、遭対部を担当しているので、毎月新刊を手にするのと、「専門委員会活動報告」を開くのが習い性になっている。○遭難対策部 ○労山基金運営委員会の2つをチェックして必要な場合は、理事会に提起することになっている。

・12月号に、「ついに労山会員の生存救出事例が！」と掲載された。「今年は5月に、労山会員外だが、家族の通報で遭難者が生存救出され田事例が早池峰山で発生した。それまでココヘリが出動して見つかった事例はあったが、残念ながらすべて遺体での発見だった。しかし、ついに生存救助となった。」

【ココヘリ加入者 山行する場合のポイント】①20gの発信機を携帯する。②ココヘリ会員IDを記載した計画書を、所属団体と家族・勤務先などに提出する(山予定日時を明記、下山連絡することを伝える)。③計画書の提出先に、下山連絡がない場合には「遭難捜索専用窓口 03-5418-7227」へ電話するよう依頼しておく。④ココヘリの捜索を待つ。

・最後に一言。登山時報は、全国の会員をつなぐ機関誌として毎月15日に発行されています。私は、遭対部としての読み方を述べましたが、内容は実に多彩です。是非ご購入をお勧めします。購読料:月310円/年間3,720円です。(文責:望月)

【編集後記】もう1月も中旬だというのに、鈴鹿の山は真っ黒け。根の平あたりの低めの稜線には雪のかけらもないようです。こんな冬がこれからは多くなるのかあ？(事務局 井土)

Schedule 2019 ※ 3月、4月のスケジュールは暫定です。

2月		3月		4月		
1	土	1	日	第 52 期総会	1	水
2	日	2	月		2	木
3	月	3	火		3	金
4	火	4	水		4	土
5	水	5	木	女性のつどい①	5	日
6	木	6	金	理事会⑳	6	月
7	金	7	土	遭対担当者会議⑤	7	火
8	土	8	日		8	水
9	日	9	月		9	木
10	月	10	火		10	金
11	火	11	水		11	土
12	水	12	木	組織担当者会議①	12	日
13	木	13	金	女性のつどい⑪	13	月
14	金	14	土	理事会①	14	火
15	土	15	日		15	水
16	日	16	月		16	木
17	月	17	火		17	金
18	火	18	水		18	土
19	水	19	木	自然保護部会①	19	日
20	木	20	金	組織担当者会議⑩	20	月
21	金	21	土		21	火
22	土	22	日		22	水
23	日	23	月		23	木
24	月	24	火		24	金
25	火	25	水	教育担当者会議① 自然保護部会①予備	25	土
26	水	26	木	理事会②	26	日
27	木	27	金	理事会(21)	27	月
28	金	28	土	一般登山講座①② 同上実行委員会①	28	火
29	土	29	日	登山学校理論	29	月
		30	月	登山学校理論	30	火
		31	火			

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com